

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	＜上位目標＞住民間の意思疎通が促進され、村落開発により住民の生活環境が改善される。 ＜達成度＞①完成した3ヶ村のコミュニティーセンターは、既に子供教育、女性の技術訓練、農業研修、青年の会議、VDC（村落開発委員会）、イベント等の活動に利用され非常に喜ばれている。②コミュニティーセミナーには計1,371人が集まり、彼らが直面している経済問題、社会問題（貧困、搾取、低教育、移民、農業等）について話し合いをした結果、自分たちで問題を解決しようとする機運が高まった。研修を通してカーストを越えた交流や他村との交流をするなかで、自村との比較検討が始まり改善への意識が高まった。③能力向上研修及び啓蒙活動を通して住民の収入増加活動がスタートした。またローカル政府（農業省）も農民支援プログラムを紹介するなど農民との連携が出来た。このプロジェクトを通して情報提供により知識が増加し、技術力、問題解決意識が向上した。さらに、村の開発に対してリーダーが責任を持ち、住民をリードするという姿勢に変わった。
(2) 事業内容	● コミュニティーセンター建設 スカサン、コルラヒ、ジャムアハの3ヶ村（人口17,190人）にコミュニティーセンターが完成し、管理運営母体である各村落開発委員会への譲渡書を作成した。 ● コミュニティーセミナーの開催 1 <u>モビリゼーションセミナー</u>： 4月と5月に359人の参加者で実施した。内容はセミナーの必要性、住民の役割、場所の確認、住民の貢献、どのようにセンターを維持管理するのか、利用方法などを話し合った。住民は寄付した土地が子供や地域の開発のために使われると分かって、積極的に協力してくれた。住民は日本の寛大さに感謝している。 2 <u>コミュニティー開発セミナー</u>： 2012年6月と11月に2回実施し465人が参加した。佐藤専門家が村の文化、経済、政治の分析を実施し、村人は自分の村の実態に気づいた。地域開発を9つの分野に分けて開発をどのようにするのか話し合いした。このセミナーではハイカーストとローカーストが一緒の場所で話し合いをしたことから、地域住民の連帯感が生まれた。女性は収入向上や教育の重要性に目覚め、経済活動や教育委員会との話し合いを行う等、CVOが強化され団結心が生まれた。 3 <u>リーダーシップセミナー</u>： 2012年11月、2013年2月エルスワーズ専門家により、現代型リーダーシップの研修、ファシリテーション研修、リーダーの資質を高めるパーソナルスタイルを実施し、480人が参加した。この研修でリーダーは自分のスタイルについて理解したコミュニティの問題とその問題を起こしている原因を理解した。貧困については地元で作ったものは安く売られ、高い品物を他から買っているため、経済的に収入を村で増やすシステムなどについて、具体的なアイデアを得た。参加したリーダーは自分たちが開発の担い手になれることを学んだ。 4 <u>農業研修（水耕栽培）</u>： 2012年6月に伊澤専門家が水耕栽培の基礎概要を説明し、同年11月に村にある材料（素焼器、竹など）を使って試した。67人がスタートし、他に100人がトレーニングに参加したいと希望している。トマト栽培が最も人気があり、チリ、ほうれん草なども試された。

	●能力向上トレーニング及び啓蒙活動 1. <u>マイクロファイナンス研修</u>： SHGの女性のグループ 254 人が参加した。研修ではヤギ、野菜の販売、商店の運営、衣類販売等を学んだ。SHGは1グループが10人～19人で毎月1人50Rs.を貯蓄する。最初は小額の貯金を使っていかに収入を増やすかを考え、次に銀行ローン、ローカル政府機関、Nabard等国の機関を利用して大きなビジネスに挑戦する。 2. <u>農業トレーニング</u>： 2013年2月に実施され、参加者の殆どが農民グループであるが、中には女性自助グループ、村落開発委員会の人も含め全体で819人が参加した。内容はキッチン菜園、害虫対策、収穫向上、肥料作り、農業省補助制度、土壌調査について指導した。HCDI農業専門家1名、農業省マデーラ農業省職員5名が講師となった。この研修でこの村ではなぜ農業生産が低いのかを理解した。また、その原因として土壌テストが為されていない、道具が古くなっていることも等が上げられた。 3. <u>青年の技術訓練</u>： 8人の若者が1年間の訓練を終了した。4人が溶接技術、4人が電気関係（テレビ、電話などの修理）を学んだ。彼らは2年目も同じ技術を学ぶ。 4. <u>災害防止トレーニング</u>： 2012年8月23日-25日の3日間で287人が参加した。参加者は災害防止のための応急手当、食中毒などの対処について学んだ。応急対策を知らないと死に至る事から、家畜、衣類、食糧、子供、書類などの持ち出しを家族が役割分担してする事、火災の防止などについても訓練を受けた。2008年の災害時にはこれらの知識を知らず多くの人々が死亡したことから知識の大切さを知った。 5. <u>子供のケアについて学校の先生を対象としたトレーニング</u>： 2013年1月28日-30日までの3日間、10ヶ村から10人の教師が集まり、幼児のクラス構成について、ゲームを通じた教育方法、周辺にある物（花、動物など）を使っの教育（TLM）、幼児の発達段階に応じた様々な教授法について訓練を受けた。 6. <u>路上講演（演劇による啓蒙活動）</u>： 1グループが10人の若者にトレーニングを行った後、10ヶ村で2回ずつ、20回の公演を実施し、16,000人の観客を得た。公演内容はカーストシステム、子供の教育、健康、搾取、子供の労働などについて演じ終了後に住民と問題について話し合った。
(3) 達成された成果	● コミュニティーセンター建設 地域初のコミュニティセンターが3ヶ村に完成した。スカサン村の人口4,890人、コララヒ村の人口4,852人、ジャムアハ村の人口4,369人、計14,111人の直接、間接的に80%が恩恵を受ける。20%は地主でこの土地に住んでいない。センターは集会、研修、子供の教育、村の結婚式やお祭りなどの行事、災害時の避難場所として利用される。 ● コミュニティーセミナーの開催 研修への参加者呼び込みなどを通して、既存の村落開発委員会、女性自助グループ、男性農民グループ、幼児教育者達の活動が活発になり、住民とリーダーの地域開発への意識が向上した。 ①モビリゼーションセミナーは3ヶ村（3438世帯）で、2回実施し426人が参加した。全体の事業計画、センター建設や研修の内容と意義、今後の村落開発の展望を共有した。このセミナーには村落開発に関わっているリーダー達も参加したため、村人にとって村の問題や提案をリーダー

	と相談しやすくなった。 ②コミュニティ開発セミナー 2回実施され432人が参加した。全員参加のワークショップ形式で、村人は村の課題と具体的な対策を話し合い、問題解決と生活向上に向けた計画を立案した。参加者は11月26日：Sukhasan村70人、11月27日Jamuaha村：96人、11月28日Korlahi村：53人。 ③リーダーシップセミナー 第1回目は11月26日-28日に、3ヶ村のコミュニティ代表、行政職員、VDCメンバー、女性SHG代表を対象に地域経済、社会、文化について話し合い、2回目は2月26日-3月3日に、村落開発委員、農民グループ、女性グループリーダーら171人を対象に実施した。農業では種子や土壌、灌漑の不足について話し合われた。 ④水耕栽培の農業研修 テストケースとして140ポットを購入、参加者にはセットしたポットにトマトの種をまき各自が家で育てた。灌漑がなく、水不足の村では水を節約し且つ家の軒下でもできる野菜栽培は、農民にとって将来の農業を支えるやり方として興味を与えた。 ●能力向上トレーニング及び啓蒙活動 ①マイクロファイナンスは2013年2月24日と25日に女性の自助グループメンバー188人に実施した。今回はヤギの販売、野菜、商店運営により、収入がRs. 2000~10,000ルピー増加し、全体で10万ルピーが増えた。 ②農業トレーニングは、農業省マデープラ郡の農業専門家4名が2種類の研修を10ヶ村の参加者、合計818人（内女性533人）に行った。科学肥料は高いため、農民はバーミカルチャー（みみずによる堆肥作り）に興味をもった。 ③青年の技術訓練はコルカタの研修所で村の男子7名が電気技師、鉄道技師、電子機器修理の技術を学んでいる。村では女子のためのミシン教室を3ヶ村で開き、約30人が技術習得に励んでいる。卒業すると収入は10,000 Rs./月を得る事ができる。技術がない場合5000 Rs.である。女性は30人が洋裁の訓練を受けた。ユニホームやブラウスなどを作り、3000Rs.の収入が増加した。 ④災害防止準備トレーニング：287人が緊急災害時の避難訓練を受け、災害時の家族の役割分担を理解し、混沌状態を回避し人々の命を助ける事ができるようになる。10ヶ村の60%は災害防災について理解した。 ⑤子供のケアについて学校の先生を対象としたトレーニング： 1月28日-30日まで、10ヶ村から幼稚園教諭10人が州都パトナで3日間の研修を受けた。先生の年齢は20才から35才で、幼児教育の知識を得たことで子供との接し方が変化した。 ⑥路上講演（演劇による啓蒙活動）：小学校に上げようとする両親が75%から90%に増えた。子供の教育について考えるようになった。チャイルドレイバーが減少した。少女が学校に残るようになった。村落開発委員会は質の良い先生を送るように地方政府に頼んでいる。922人の女性（SHG75グループから10人）の内40%、360人が互いに教師をモニタリングするようになった。75%の内60%が中学校に行く。
--	---

(4) 持続発展性	＜建物の維持・管理方法＞ 3ヶ村のセンターの管理運営はVDCと地域行政が行う。使用料や活動参加費用を集めて補修・改善、建物の維持管理費用とする。 ＜ソフト事業がどのように現地提携団体に引き継がれていくか＞ 現地提携団体HCDIは2008年から今事業の10ヶ村を含めたマデープラ郡で、現地政府と村落開発委員会そして農民グループと連携しながら、各種研修、幼児教育、洪水後の復興支援事業などの活動を海外ドナーの支援で実施してきた。女性自助グループを設立・組織したのも現地提携団体であり、今事業で行った研修の成果（話し合った内容、学び）を村人が実践するよう補佐する。特に農業、マイクロファイナンス、幼児教育については追加の研修を複数行い、村人の技術向上をサポートする。
------------------	--